

# 所 報

2019. 1~12

2019年1月から12月までの社会科学研究所の活動は以下のとおりである。

## 1. 機関及び人事

### 1. 定例所員総会

所員の総意のもとに、各所員の積極的な参加を活力にして、本研究所を民主的に運営し、社会科学の総合的研究を推進していくために努力をしてきた。今後も、所員の意見・希望等に積極的に応えていきたい。

(1) 第113回定例所員総会 2019年6月1日(土) 10:00~12:30 生田キャンパス92B会議室  
議事: 所長挨拶、所員等の異動、2019年度社研体制、2018年度事業報告、同会計報告、2019年度事業計画案、同予算案、その他、すべての議案は承認された。

(2) 第114回定例所員総会 2019年12月21日(土) 12:00~14:30 生田キャンパス221教室  
議事: 所長挨拶、所員等の異動、2019年度事業中間報告、同会計中間報告、2020年度事業計画案、同予算案、その他、すべての議案は承認された。

## 2. 所員の異動 (2019.1.1以降)

### 1. 所員の委嘱・解嘱

委嘱: 杉橋やよい(経)、森田公之(経)、森原康仁(経)、森 啓明(経)、山縣宏寿(経)、  
菱山宏輔(人) 黒田友哉(法)、川上洋平(法)、河野真太郎(法)

解嘱: 原田博夫(経済)、田口文夫(法)、田口冬樹(経営)、広田康生(人間)(以上、定年退職)

### 2. 研究参与の委嘱・解嘱

委嘱: 原田博夫、田口文夫(5月)、田口冬樹、広田康生、

解嘱: 小林直樹(辞退)、奥田和彦、山下文明(ご逝去)、田口文夫(辞退11月)

### 3. 客員研究員の委嘱・解嘱

委嘱: 金 美珍、高口僚太郎、川上 哲

解嘱: なし

### 4. 特別研究員の委嘱・解嘱

委嘱: なし

解嘱: なし

### 3. 運営委員、会計監査、事務局員の構成

#### 1. 2018年度社研体制

	運営委員		事務局員 (○はチーフ)
所長	宮崎 晃臣 (経)	事務局長	樋口 博美 (人)
事務局長	樋口 博美 (人)	会計	○谷ヶ城秀吉 (経)
前事務局長	大矢根 淳 (人)		佐藤 慶一 (ネ)
運営委員	原田 博夫 (経)	研究会	○石川 和男 (商)
	白藤 博行 (法) (2018.9~国内研究)		飯沼 健子 (経)
	蔡 芒錫 (営)		永島 剛 (経)
	神原 理 (商)		福島 義和 (文)
	今野 裕昭 (人)	編集	栢田大知彦 (経) (~ 2018.9.30)
			○鈴木奈穂美 (経) (2018.10.1~チーフ)
			小池 隆生 (経) (2018.10.1~)
会計監査	清水 真志 (経)		徐 一睿 (経)
			広瀬 裕子 (文)
		文献資料	兵頭 淳史 (経) (~ 2018.9.30)
			○恒木健太郎 (経) (2018.10.1~チーフ)
			長尾 謙吉 (経) (2018.10.1~)
	ホームページ		○高萩栄一郎 (商)
			吉田 雅明 (経)

#### 2. 2019年度社研体制

	運営委員		事務局員 (○はチーフ)
所長	宮崎 晃臣 (経)	事務局長	樋口 博美 (人)
事務局長	樋口 博美 (人)	会計	○谷ヶ城秀吉 (経)
前事務局長	大矢根 淳 (人)		佐藤 慶一 (ネ)
運営委員	内山 哲朗 (経)	研究会	○石川 和男 (商)
	白藤 博行 (法) (2019.9~)		飯沼 健子 (経)
	蔡 芒錫 (営)		永島 剛 (経)
	神原 理 (商)		福島 義和 (文)
		編集	○鈴木奈穂美 (経)
			小池 隆生 (経)
会計監査	村上 俊介 (経)		徐 一睿 (経)
			広瀬 裕子 (人)
		文献資料	○恒木健太郎 (経)
			長尾 謙吉 (経)
		ホームページ	○高萩栄一郎 (商)
			吉田 雅明 (経) (~ 2019.9.30)

## 4. 事務局会議・運営委員会

### 1. 事務局会議

2018年度 (2019.1.1以降)

(11) 1月29日 (火) 第11回事務局会議

- ①定例研究会 (申請と承認: 定例C (大矢根G) [減災サイクルのステークホルダーと事前復興への取り組みの実相] (2/22) / 定例C (遠山G) [日本貿易会協会の設立と活動—日本貿易会前史—] (2/22) / 定例C (土屋G) [転換点としての1968—ジャン・ジュネと5月革命を中心に—] (2/28) / 定例C (原田G) [中国・新常态研究の振り返り—研究者・原田博夫はなぜアジア・中国研究にシフトしたのか—] (3/18)

②2018年度春季実態調査進捗

③客員研究員に関する社研規程改定にともなう細則と内規の改定について

④神田新展開にともなう神田社研分室について

⑤所報 (月報、年報進捗)

⑥文献資料 (ベトナムへの社研所有文献送付、藤本武文庫整理進捗)

⑦HP/PC (月報スキャニングPDF化)

⑧2018年度後期予算消化状況と今後の予定

⑨今後の日程 (第12回事務局会議2/21、第3回運営委員会・第13回事務局合同会議3/19)

[報告] 2018年度後期総会報告

(12) 3月13日 (火) 第12回事務局会議

①グループ研究Aおよび特別研究継続申請の審議と事務局承認

②客員研究員に関する細則、内規について

③神田新展開にともなう神田社研分室についての提案と事務局承認 (条件提示の上で三研究科での使用を承認する)

④所報 (月報、年報進捗)

⑤文献資料 (藤本武文庫整理進捗と今後の予定)

⑥HP/PC

⑦2018年度後期予算執行状況報告と今後の予定

⑧2019年度事務局体制について

[報告] 2018年度春季実態調査 (スリランカ)

(13) 3月19日 (火) 第13回事務局会議 (第3回運営委員会との合同会議)

①グループ研究Aおよび特別研究継続申請確認と運営委員会承認

②客員研究員に関する細則、内規について

③神田新展開にともなう神田社研分室についての提案と運営委員会承認

④2018年度後期予算執行状況と今後の予定

⑤2019年度運営委員会・事務局体制について

⑥新参与候補および依願退職者、客員候補案の提示と承認

## 2019年度

### (1) 4月23日（火） 第1回事務局会議

#### ①2019年度社研運営体制

事務局・運営委員の体制／所員の異動／研究参与・客員研究員・特別研究員の意向確認状況／参与の承認

#### ②2018年度報告（「2018年度事業報告書」：3/31学務課提出、に基づき）

研究調査事業報告（定例研究会／シンポジウム／夏季・春季実態調査／研究助成等）／所報刊行（年報、月報、叢書）／文献資料（山田盛太郎文庫+藤本文庫の収集と整理）／PC/HP（神田設置）、これらをふまえた2018年度決算報告

#### ③客員研究員の資格基準について（継続・再任用にともなう条件、書類書式他）

#### ④2019年度方針および現在の進捗

特別研究会企画（夏季実態調査 [北前船part3（北陸）] + 春季実態調査 [北九州]）、定例研究会（申請と承認：定例A（申請者：恒木健太郎所員）、公開シンポジウム [川崎市、堺市、北九州市における産業政策と環境政策（仮）]、檀国大学との共同研究会開催提案、社研70周年記念事業開催提案／特別研究助成、グループ研究助成の募集（5/9メ切）+助成金受け渡し日程承認（4/23,24）／2018年度発足グループ研究助成A（代表：村上俊介）メンバー追加（承認）／所報刊行（月報（No.670～681）、年報54号刊行予定）叢書（第22巻編集体制・契約書等作成段取り等）／特別文庫の製本と整理／PC/HP（リポジトリによる公開作業の継続）、これらをふまえた2019年度予算案作成ポイント

#### ⑤2019年度前期社研総会（6/1）、事務局会議、運営委員会との合同会議（5/21）、事務局会議（5/7,5/14）開催日程

### (2) 5月7日（火） 第2回事務局会議

#### ①2019年度社研体制

客員継続意思確認→⑥資格基準検討中のため今年度見送り／所員の異動／新規所員、参与、客員の申請・推薦

#### ②特別研究助成、グループ研究助成の申請状況

#### ③年報募集（募集締切7/1と原稿締切10/21、募集原稿内容）→第2回事務局会議後募集開始

#### ⑤2019年度前期総会（6/1）開催案内の内容確認

#### ⑥客員研究員の資格基準（細則変更、申し合わせ内容の検討）

[報告] 特別研究、グループ研究 継続グループへ受け渡し（4/23,24実施）完了

### (3) 5月14日（火） 第3回事務局会議

#### ①2019年度社研運営体制

所員、研究参与、特別研究員の所属・移動確認／所員、客員研究員、特別研究員の新規推薦状況／客員研究員の資格基準 [細則改定]

②2019年度事業計画案

特別研究会企画（夏季実態調査 [北前船の足跡をめぐる Part3]（案）9/2～6）予算承認／シンポジウム [川崎市、堺市、北九州市における産業政策と環境政策]（11月予定）／定例研究会（申請と承認：定例A（申請者：蔡芒錫所員）、定例A（申請者：松井 暁所員）、定例A（申請者：狐崎知己所員））／特別研究助成、グループ研究助成応募状況／新規特別研究助成選考委員選出（2件×3名）・承認／所報刊行（月報進捗、年報への客員研究員と非研究員の共同執筆承認／叢書第22巻（代表村上俊介所員）契約書作成日程（5/28予定）／PC/HP（デジタル化、公開作業準備）／2019年度予算案の事務局承認

③神田新展開にともなう社研神田分室について（学長面談の報告）

④総会前後の日程案（第4回事務局会議7/2）

[報告] 会計内部監査（5/7実施）報告

(4) 5月21日（火）第4回事務局会議（運営委員会との合同会議）

①所長挨拶

②2018年度事業報告（承認）

③2018年度会計（収支決算）報告、会計監査報告（承認）

④2019年度事業計画案（承認）

2019年度事務局・運営委員の体制（所員の異動／新所員の承認／会議・総会予定）／研究調査事業（定例研究会（予定）／特別研究会：夏季実態調査企画、春季実態調査企画／シンポジウムの開催）／研究助成：2019年度継続・新規の研究助成の審議と承認（グループ研究A,B・特別研究）／所報刊行（年報、月報の刊行予定・進捗）／叢書第22巻（代表村上俊介所員）編集計画／特別文庫の修復・整理、文献のデータベース化／PC/HP（情報化システムの構築、所報デポジット公開の進捗）

⑤2019年度予算案（承認）

⑥客員研究員の資格基準（細則変更）（承認）

⑦神田新展開にともなう社研神田分室について（承認）

(5) 7月2日（火）第5回事務局会議

①夏季実態調査：北前船 part3（北陸版：新潟～富山）

②社研70周年シンポジウム「川崎市、堺市、北九州市における産業政策と環境政策（仮）」（提案・承認）

③社研70周年記念事業：12/21 記念講演会、70年史刊行披露（開催提案・承認）

④檀国大学との合同研究会：11/9 於神田（提案・承認）

⑤定例研究会（申請と承認：定例C（申請者：谷ヶ城 秀吉所員）、定例A（申請者：谷ヶ城 秀吉所員））

⑥所報：月報進捗、年報（第54号）への応募状況

⑦文献資料：藤本文庫、山田盛太郎文庫 作業進捗

⑧HP/PC：月報の公開、デジタル化作業進捗

⑨客員研究員および推薦者への通知文書検討

- ⑩研究所謝金・謝礼の区分（インタビュー対応者、アンケート協力者、訪問説明対応者）提案  
 [報告] 研究助成の受け渡し報告、会計外部監査（6/13実施）報告
- (6) 9月24日（火） 第6回事務局会議
- ①社研70周年シンポジウム（再提案・承認）
  - ②川崎市生田東部地区イベントとの社研共催について（承認）
  - ③社研70周年記念事業：12/21 記念講演会等（内容提案・承認）
  - ④檀国大学との合同研究会準備進捗
  - ⑤所報：月報進捗
  - ⑥HP/PC：2002年度以前の月報公開、デジタル化作業進捗
  - ⑦研究所謝金・謝礼の区分（継続審議）、一般アルバイト謝金の金額変更（20円アップ）（承認）  
 [報告] 2019年度予算執行状況、夏季実態調査北前船 part3（北陸：佐渡～富山～金沢、9/2～6）実施報告
- (7) 10月15日（火） 第7回事務局会議
- ①社研70周年シンポジウム（進捗）
  - ②檀国大学との合同研究会進捗と参加者募集
  - ③研究所の謝金・謝礼（専門的知識の提供による研究協力者への上限を10,000円～20,000円とする）（承認）
  - ④2020年度からの神田分室の利用内規（3研究所共同利用）
  - ⑤所報：月報進捗と月報発刊順の変更
  - ⑥2019年度後期活動計画と予算消化（状況と今後の予定）
  - ⑦2020年度事業計画案と予算案（提案）
- (8) 10月29日（火） 第8回事務局会議
- ①社研70周年シンポジウム進捗2020/1/25（土）「川崎市における産業の歴史と（仕事・くらしの）現在と未来（仮）」
  - ②社研70周年記念事業（12/21開催）進捗
  - ③檀国大学との合同研究会進捗
  - ④2019年度後期総会（12/21）開催案内の内容確認
  - ⑤2020年度からの神田分室の利用内規（3研究所での共同利用に向けて）
  - ⑥所報：年報（10/20締切）進捗、月報今後の予定
  - ⑦2020年度事業計画案と予算案（学務提出）の事務局承認
- (9) 11月19日（火） 第9回事務局会議
- ①定例研究会（申請と承認：定例A（申請者：大矢根 淳所員）、公開研究会（70周年関連）（申請者：恒木 健太郎所員））
  - ②社研70周年記念事業：（12/21開催）進捗、役割分担
  - ③2019年度春季実態調査（北九州（福岡）～有田（佐賀）案）継続審議
  - ④所報：年報進捗、月報進捗
  - ⑤文献資料：神田分室の図書整理

- ⑥ 2020年度からの神田分室の利用 (11/5の三研究所世話人会の報告含)
- ⑦ 2019年度予算執行状況
  - [報告] 檀国大学との合同研究会 (11/9 (土) 開催) 報告
- (10) 12月3日 (火) 第10回事務局会議
  - ① 社研70周年記念事業 (12/21開催) 進捗、タイトル、役割分担 (再確認)
  - ② 社研70周年記念公開シンポジウム: 川崎の産業とくらしーはたらきがい・いきがいあふれる地域を展望する (仮) —
  - ③ 2019年度春季実態調査 (案) 再提案 (承認)
  - ④ 所報: 月報進捗、年報進捗 (12/3現在)
  - ⑤ 文献資料: 関連公開研究会 (2/17) 進捗
  - ⑥ 2019年度後期総会準備進捗 (12/17 第2回運営委員会・第8回事務局合同会議提出の総会議案書構成確認)
  - ⑦ 2020年度客員研究員継続申請の周知について
  - ⑧ 今後の日程: 第12回事務局会議: 20/1/21、第3回運営委員会・第13回事務局合同会議: 20/3/17 事務局承認
- (11) 12月17日 (火) 第11回事務局会議 (運営委員会との合同会議)
  - ① 2019年度事業中間報告 (運営委員会承認)
    - 2019年度後期事務局・運営委員の体制 (新所員の承認/所員の異動/今後の会議予定) / 研究調査事業 (社研70周年記念事業 (12/21) 準備進捗/社研70周年シンポジウム 2020/1/25 / 2019年度春季実態調査 (九州) 事前研究会 (1/29)) / 所報進捗 (12/17現在) / 文献資料 (特別文庫整理進捗) / PC/HP (情報化システムの構築、所報デポジトリ公開の進捗)
  - ② 2019年度会計中間報告 (承認)
  - ③ 2020年度事業計画案および2020年度要求予算案 (承認)
  - ④ 2019年度春季実態調査 (九州~久留米~佐賀) 企画 (承認)
  - ⑤ 社会科学研究所規程・細則・内規 (客員研究員関連) の改定 (承認)
  - ⑥ 社会科学研究所神田分室 (社会科学研究所規程・細則・内規の改定について) (承認)
  - ⑦ 2020年度客員研究員継続申請の周知について

## 2. 運営委員会

- (1) 3月19日 (火) 事務局会議との合同会議: 2018年度事務局会議 (13) に同じ
- (2) 5月21日 (火) 事務局会議との合同会議: 事務局会議 (4) に同じ
- (3) 12月17日 (火) 事務局会議との合同会議: 事務局会議 (11) に同じ

## 5. 研究調査活動

### 1. 定例研究会 (公開研究会、特別研究会、基準A・B・Cを含む)

全学部にまたがる所員、研究参与、客員研究員の幅広い問題関心を積極的に採用しつつ、現代社

会の諸問題に対して多様な社会科学的アプローチを試み、研究成果を積極的に公表してきた。

今年度の研究会開催申請の提出メ切は、下記のような日程で進めてきた（下記★参照）。一定の条件を設けた上で緩やかな運用を行ってきた。

★2019年度の研究会申請申込みメ切日程

（5月開催希望 / 4月22日）（6月開催希望 / 5月14日）（7月開催希望 / 6月15日）（8月開催希望 / 7月1日）（9月開催希望 / 7月末日）（10月開催希望 / 9月15日）（11月開催希望 / 10月14日）（12月開催希望 / 11月18日）（1月開催希望 / 12月20日）（2月開催希望 / 12月20日）

**参考** 定例研究会の区分

- ◇定例研究会A：月一回程度の開催として、一回の予算枠は10万円程度（※15万円限度）とする（謝金と交通費、懇親会費等を含む総額）。
- ◇定例研究会B：定例研究会予算枠を使用しない研究会（予算はつかないが、広報は社研が担う）
- ◇定例研究会C：グループ研究成果報告会として研究会（開催予算はグループ研予算）（※グループ研究助成（特別、A）の成果報告会は定例研究会として開催されることになっている。）

**2018年度**（2019年1月以降）

定例研究会C：研究助成A（恒木健太郎グループ）

- (10) 1月23日（水）15：00～17：00 場所：専修大学向ヶ丘遊園サテライト・スタジオB  
テーマ：労研社会科学の軌跡と藤本 武  
報告者：石井まこと氏（大分大学経済学部教授）  
参加者：8名

特別研究会：社研春季実態調査事前研究会

- (11) 2月2日（金）14：30～17：00 場所：社会科学研究所会議室  
テーマ：スリランカの諸問題  
報告者：中村尚司（龍谷大学名誉教授、特定非営利活動法人パルシック理事）  
参加者：14名

定例研究会C：研究助成A（大矢根淳グループ）

- (12) 2019年2月22日（金）16：00～18：00 場所：社会科学研究所会議室  
テーマ：減災サイクルのステークホルダーと事前復興への取り組みの実相  
報告者：大矢根淳所員、飯 考行所員、佐藤慶一所員  
参加者：9名

定例研究会C：研究助成A（遠山 浩グループ）

- (13) 2019年2月22日（金）16：00～18：15 場所：神田校舎1号館4階ゼミ室43教室  
テーマ①：日本貿易会協会の設立と活動—日本貿易会前史—／報告者：保田明子（日本貿易会企画グループ統括主幹）  
テーマ②：戦前期総合商社における接待—海外渡航者接待を中心として—／報告者：大島



久幸 (高千穂大学経営学部教授)

参加者: 12名

定例研究会C: 特別研究助成 (土屋昌明グループ) 公開研究会

(14) 2019年2月28日 (木) 18:30 ~ 20:30 場所: 神田校舎7号館731教室

テーマ: 転換点としての1968—ジャン・ジュネと5月革命を中心に—

報告者: 鶴飼 哲氏 (一橋大学)、峯村 傑氏 (慶應義塾大学)、根岸徹郎所員

参加者: 28名

定例研究会C: 特別研究助成 (原田博夫グループ) 公開研究会

(15) 2019年3月18日 (月) 15:00 ~ 17:00 場所: 生田校舎2号館211教室

テーマ: 中国・新常态研究の振り返り—研究者・原田博夫はなぜアジア・中国研究にシフトしたのか

報告者: 原田博夫所員

参加者: 40名

## 2019年度

定例研究会A: (申請者: 蔡 芒錫所員)

(1) 6月18日 (火) 16:30 ~ 18:00 / 場所: 生田校舎9号館95F教室

テーマ: ラオスにおける日系企業の現状と課題

報告者: Souliphone Luanglath (ラオス国立大学)

参加者: 8名

定例研究会A (申請者: 恒木健太郎所員) [公開]

(2) 6月23日 (日) 13:00 ~ 17:00 / 場所: 神田校舎5号館571教室

テーマ: なぜ戦争は食い止められなかったのか

—『経済学者たちの日米開戦』と『戦争調査会』から考える—

1. 開戦の意思決定をしたのは誰か / 報告者: 定藤博子氏 (鹿児島国際大学経済学部専任講師)

2. 日米開戦と「正確な情報」 / 報告者: 牧野邦昭氏 (摂南大学経済学部准教授)

3. 戦争回避の可能性をめぐる歴史的想像力 / 報告者: 井上寿一氏 (学習院大学学長)

コメント: 菅原 光所員

参加者: 45名

定例研究会C (申請者: 谷ヶ城秀吉所員)

(3) 6月28日 (金) 16:00 ~ 18:00 / 場所: 神田校舎7号館771教室

テーマ1: 株式市場から見た各商社の成長戦略と次世代化への取り組み / 報告者: 成田康浩氏 (野村證券株式会社エクイティ・リサーチ部マネージング・ディレクター)

テーマ2: 高度経済成長期における総合商社の商取引に関する歴史分析: 三井物産を事例に / 報告者: 谷ヶ城秀吉所員

コメントーター: 田中 彰 (京都大学大学院経済学研究科教授)

参加者：20名

定例研究会A（申請者：松井 暁所員）

(4) 7月10日（水）15：00～17：45／場所：サテライトキャンパススタジオB

テーマ：制度派進化経済学（レギュレーション・アプローチ）と市民社会認識はいかにつながるか？：理論的検討と政策構築

報告者：植村博恭氏（横浜国立大学）

参加者：7名

定例研究会A（申請者：狐崎知己所員）

(5) 7月23日（火）16：00～18：00／場所：生田校舎9号館95G教室

テーマ：Rebalancing to Asia：Views from Europe , Political and Economic analysis of the changing international relations in Asia, viewing from Europe using hedging theory

報告者：Angels Pelegrin Sole (University of Barcelona), Lluç Lopez i Vidal (Universitat Obert de Catalunya)

討論者：大橋英夫所員、稲田十一所員

参加者：15名

定例研究会A（申請者：谷ヶ城秀吉所員）

(6) 8月5日（水）16：00～18：00／場所：サテライトキャンパススタジオB

テーマ：戦後ベトナムにおける日本人の引揚

報告者：Vo Minh Vu（ヴォ・ミン・ヴ）氏（ベトナム国家大学ハノイ校付属人文社会科学大学専任講師）

参加者：7名

定例研究会A（申請者：大矢根 淳所員）

(7) 12月19日（木）18：00～20：00／場所：神田校舎社研分室

テーマ：阪神・淡路大震災から東日本大震災の10年総括検証に向けて～復興・減災ステークホルダーをたどりつつ

報告者：三澤一孔、宮定 章（客員研究員）、浅野幸子（減災と男女共同参画 研修推進センター）

参加者：30名

☆その他今年度1月以降、定例研究会Aが1回、定例研究会Cが4回、特別研究会が1回開催される予定である。

## 2. シンポジウム他

専修大学社会科学研究所創立70周年記念事業・祝賀会

日 時：2019年12月21日（土）（二部形式）

第1部：創立70周年記念講演会〔15：00～17：00 生田校舎2号館1F 211教室〕

15：00 開会

来賓挨拶：佐々木 重人 学長

15：10 リレー講演：水川 侑 参与、柴田 弘捷 参与、村上 俊介 所員

16：10 記念講演：宮寄 晃臣 所長「グローバル資本主義の進展と社研調査研究活動」および質疑応答

17：00 閉会

第2部：創立70周年および70年史刊行記念祝賀会〔17：20～19：30 3号館7F 蒼翼の間〕

17：20 『社会科学研究所70年史』お披露目

17：30 乾杯 歓談、ゲストスピーチ等

### ※これからのシンポジウム

専修大学社会科学研究所創立70周年記念公開シンポジウム

2020年1月25日（土）13：00～16：30／場所：専修大学生田校舎3号館7階蒼翼の間

テーマ：川崎の産業と暮らし——はたらきがい・いきがいあふれる地域へ——

司会：永島 剛所員

第1部 講演

(1) 川崎市の産業の歴史 平尾 光司（研究参与）

(2) 川崎市の新産業政策 草野 静夫氏（川崎市経済労働局 担当理事 産業政策部長）

(3) 川崎・地域のくらしと仕事 野村 幸平氏（川崎市男女共同参画センター(すくらむ21)館長）

第2部 パネルディスカッション

第3部 全体質疑応答

### 3. 特別研究会企画

特別研究会における実態調査は夏および春の休暇中に実施されている。夏と春の合宿・集中研究会は、定例研究会では実施が困難な実態調査や自治体関係者との特定のテーマに関する討論会や工場見学などを組み込んだ多様な実態調査を開催し、また所報で調査報告を行なっている。2019年3月（2018年度春季）には「スリランカの社会経済—実態と課題」を実施し（2019.2.28-3.10）、2019年度の夏季には「北前船の足跡をたどる Part3：北陸 佐渡～富山～金沢」を実施した（2019.9.2-6）。2019年度春季には「北九州・佐賀の急加速と蝸牛の如き産業変化」と題した実態調査を予定（2020.2.25-29）している。

(1) 2018年度春季実態調査：スリランカの社会経済—実態と課題（2019.2.28-3.10）

[行程]（すべてバス移動）

※変容期にあるスリランカの多様な側面を理解すべく、同国を北から南に縦断し、各地に残る歴史や文化に触れながら内戦後の社会とその経済成長の実態および課題についての現地調査を行った。

第1日目：2月28日（木）成田から空路10時間程度でネゴンボ着

第2日目：3月1日（金）ネゴンボ出発、陸路北上

- ・ジャフナ大学訪問「スリランカ北部社会の変容と現在」についての講義および質疑応答
- 第3日目：3月2日（土）北端の島ナーガディーパ、キリマライ、ポルトガルやオランダのかつての拠点要塞跡見学
- 第4日目：3月3日（日）ジャフナからアヌラーダプラへ移動
- ・ジャフナ県ヴァダマラッチ郡ウドトゥライ村NGO事業「サリーリサイクル事業」参加者たちを訪問、ヒアリング
  - ・アヌラーダプラの仏教寺院見学
- 第5日目：3月4日（月）
- ・ミヒンタレの仏教寺院見学
- 第6日目：3月5日（火）
- ・シーギリヤ博物館および周辺の見学
  - ・シーギリヤロック登頂
- 第7日目：3月6日（水）
- ・マータレーの日系企業ノリタケ社を訪問、見学、ヒアリング
  - ・キャンディの縫製工場MAS factory（スリランカ英米独合弁のアパレル企業MAS Holdings）を訪問、見学、ヒアリング
- 第8日目：3月7日（木）
- ・キャンディにてTea Factory 見学
  - ・コロンボにて社会起業家（視覚障がい者の就労支援事業Thusare 経営者石川氏）を訪問、見学、ヒアリング
- 第9日目：3月8日（金）
- ・コロンボ大学にて「スリランカ経済について」（コロンボ大学元学長W.D.ラクシュマン氏）の講義および質疑応答
  - ・同大学にて「スリランカにおけるトロツキー主義について」（コロンボ大学教授）の講義および質疑応答
  - ・コロンボ市内の宝石販売加工企業（スリランカ人職人を養成する大槻氏）を訪問、見学、ヒアリング
- 第10日目：3月9日（土）
- ・コロンボ市内船舶製造修理業Colombo Dock Yard社（尾道造船グループ）を訪問、見学、ヒアリング
  - ・コロンボ博物館見学
  - ・コロンボから搭乗・帰国へ
- 第11日目：3月10日（日）成田着
- 〔参加者：16名〕

(2) 2019年度夏季実態調査：北前船の足跡をたどる Part3：北陸 佐渡～富山～金沢 (2019.9.2-6)

[行程] (すべてバス移動)

第1日目：9月2日 (月)

- ・新潟港発 (ジェットfoil乗船) → 佐渡両津港
- ・トキの森公園訪問、見学
- ・真野鶴尾畑酒造訪問、見学

(佐渡市内宿泊)

第2日目：9月3日 (火)

- ・キラリウム佐渡訪問、映像視聴、推進課による説明・質疑応答
- ・佐渡金銀山世界遺産ツアー (バスによる見学・ガイド案内付き)
- ・セイデンテクノ (株) 訪問、見学、ヒアリング
- ・無名異焼 (玉堂窯) 見学

(佐渡市内宿泊)

第3日目：9月4日 (水)

- ・佐渡国小木民俗博物館 (千石船展示館) 訪問、見学
- ・千石船の里宿根木あるき (自由行動)
- ・小木港発高速カーフェリー乗船 → 直江津港
- ・YKK黒部パークセンター訪問、見学

(魚津市内宿泊)

第4日目：9月5日 (木)

- ・富山市役所訪問、質疑応答
- ・廣貫堂訪問、見学、ヒアリング
- ・富山コンパクトシティ体験 (途中昼食休憩) → LRT 移動、北前船廻船問屋森家訪問・見学
- ・株式会社ハナガタ訪問、見学、ヒアリング

(高岡市内宿泊)

第5日目：9月6日 (金)

- ・高岡金屋町まちあるき (自由行動：金屋緑地公園)
- ・高岡鋳物「能作」訪問、工場見学、ヒアリング (カフェ IMONO KITCHENにて昼食休憩)
- ・金沢「津田駒工業」訪問、見学、ヒアリング
- ・金沢駅にて終了・解散

[参加者：15名]

☆本実態調査については、『月報』(2019年度1月+2月合併号)に掲載予定。

(3) 2019年度春季実態調査：福岡県北九州市周辺と佐賀県

「北九州・佐賀の急加速と蝸牛の如き産業変化」と題し、早春の九州地方で急加速している産業変化と、蝸牛のような産業変化の双方を見聞・体感する実態調査を2020年2月25日～29日の日程で予定している。具体的な訪問地は、北九州～久留米～武雄～伊万里～有田。

(4) 第11回専修大学・檀国大学合同研究会

2019年11月9日(土) 場所 専修大学〔参加者：18名〕

テーマ：日本と韓国における経済デモクラシー “Economic Democracy in Japan and South Korea”

Opening

Chair：YAMADA, Koji (Senshu Univ.)

Opening address：MIYAZAKI, Teruomi (Senshu Univ.) YIM, Sang- Hyuk (Dankook Univ.)

Session 1

Presentation I “The Effect of International Trade on Income Inequality”

Presenter：CHOI, Chang- Hwan (Dankook Univ.)

Commentator：YANO, Takashi (Senshu Univ.)

Presentation II “From Crisis to Revitalization：Industrial Democracy of Japan and the World”

Presenter：HYODO, Atsushi (Senshu Univ.)

Commentator：JEONG, Yoon-Se (Dankook Univ.)

Session 2

Presentation III “The Effects of Mental Budgeting and Pain of Paying on the Financial Decision Making of Socially Excluded People”

Presenter：CHUN, Sung-Yong (Dankook Univ.)

Commentator：MEGURO, Ramon (Senshu Univ.)

Presentation IV “Jobless and Wageless Recovery and the Work-style Reforms in Japan”

Presenter：YAMAGATA, Hirotohi (Senshu Univ.)

Commentator：YIM, Sang- Hyuk (Dankook Univ.)

Closing

Closing address：OZAWA, Ichiro (Senshu Univ.)

Translator：SEO, Hyun- Koo (Senshu Univ.) KIM, Mi-Jin (Senshu Univ.)

#### 4. 研究助成

(1) **グループ研究助成A** (所員4名以上・年50万円3年間・定例総会にて研究経過報告義務/1名以上論文発表義務・定例研究会にて成果報告会を開催すること)

2017年度発足 なし

2018年度発足

◇「社研70年の活動史研究」

(村上俊介(責)・石川和男・大矢根淳・樋口博美・宮寄晃臣・柴田弘捷・町田俊彦(2019～加入)の7名)

◇「減災サイクルのステークホルダーと事前復興への取り組みの実相～巨大災害(東日本大震災/首都直下・南海トラフ地震)を射程に～」

(大矢根淳(責)・佐藤慶一・飯考行・近江吉明・福島義和・宮定章・三澤一孔・所

澤新一郎の8名)

- ◇「総合商社機能の歴史と現在：経済史・経営史的アプローチと産業調査・業界調査的アプローチの融合を目指して」

(遠山 浩 (責)・田中隆之・永江雅和・谷ヶ城秀吉・大島久幸の5名)

2019年度発足

- ◇「日本経済の構造変化とその方向性」

(田中隆之 (責)・鈴木将覚・大倉正典・河藤佳彦・中村吉明・小島 直の6名)

**(2) グループ研究助成 B** (所員2名以上・年20万円1年間・定例所員総会にて研究経過報告義務)

2019年度発足

- ◇「合意形成のあり方をめぐる課題と可能性―八重山諸島における教科書採択と自衛隊駐屯地設置を手掛かりに―」

(福山文子 (責)・矢吹芳洋・嶺井正也の3名)

- ◇「戦後日中経済関係検討研究会―横浜～上海を軸とした考察―」

(大橋英夫 (責)・遠山 浩・李 春霞の3名)

- ◇「社会運動ユニオニズムの史的研究」

(兵頭淳史 (責)・柘田大知彦・金 美珍の3名)

**(3) 特別研究助成** (所員5名以上・年100万円3年間・定例所員総会にて研究経過報告義務、年度内に研究中間報告を定例研究会枠にて実施・助成終了後2年以内に『社会科学研究叢書』刊行義務)

2017年度発足

- ◇「多文化社会と視覚表象研究の可能性」

(土屋昌明 (責)・下澤和義・網野房子・井上幸孝・上原正博・根岸徹郎の6名)

2018年度発足 なし

2019年度発足

- ◇「川崎市をフィールドとする産業・労働・生活の現状と課題に関する研究」

(小池隆生 (責)・鈴木奈穂美・長尾謙吉・杉橋やよい・山縣宏寿・畠中 亨の6名)

## 6. 所報の刊行

### 1. 『社会科学年報』第54号の刊行

所員の執筆申し込みに応じて『年報』第54号を編集する。450部印刷する。

なお、『年報』第54号の製作ならびに出版契約については、佐藤印刷株式会社との契約を継続する。

また、エントリーの締め切りは6月末に設定し、現在、入稿済、校正中である。

## 論文

- ミャンマーにおける経済発展と自動車産業政策 石川和男 (所員)  
『資本論』形成史の貨幣論モーメント 内田 弘 (参与)  
J.R. コモンズの貨幣制度説とその射程  
——B. テレのコモンズ解釈を中心に—— 坂口明義 (所員)  
福岡県養蚕業の展開と製糸資本の活動 高梨健司 (客員)  
法・正義・暴力——法と法外なもの 西角純志 (客員)  
資本主義、資本主義的生産、資本主義社会の区別について 新田 滋 (所員)  
自律的教育経営の機能不全問題と対応政策  
—英国政府の強制的介入支援及びOfstedの性格変容— 広瀬裕子 (所員)  
国庫債務負担行為の現状及び後年度への財政影響 藤井亮二 (客員)・山田千秀 (外部)  
青森県知事：三村申吾—長期政権の「光り」と「影」—⑧ 藤本一美 (参与)  
環境とデジタル時代の自動車産業と社会  
—技術革新と社会変化の相互作用についての一考察— 水戸部啓一 (客員)

## 研究ノート

- On Pastoralism and Climate Change Regina Hoi Yee FU (所員)

## 所報

樋口博美 (事務局長)

## 編集後記

鈴木奈穂美 (編集担当チーフ)

## 2. 『月報』の刊行

第667号～第678号を所員等の投稿に基づいて刊行した。なお、『月報』の制作については、佐藤印刷株式会社との契約を継続する。毎号400部程度印刷。

今年度については、昨年度(2018)春季実態調査特集の合併号を刊行した。また、2019年度夏季実態調査特集の合併号も刊行予定である。

### 2018年度 (2019年1月以降)

(9) 1月20日・2月20日 (第667・668号合併号)：2018年度夏季実態調査特集号

「社会科学研究所2018年度夏季実態調査 北前船の足跡をたどる Part 2

—東北日本海側：秋田～山形～新潟—行程記録」

樋口博美 (所員)

「TDK株式会社と地域貢献マーケティング—齋藤憲三と故郷との関わりを中心に—」

石川和男 (所員)

「劇画に投影された河村瑞賢——白土三平『カムイ伝』の夢屋七兵衛をめぐる」

根岸徹郎 (所員)

「秋田と東北各地域の観光とインバウンド誘致対策について」

飯田謙一 (参与)

「庄内たがわ農業協同組合月山ワイン山ぶどう研究所について」

宮寄晃臣 (所員)

「小鵜飼船に乘せられた青苧と木綿—最上川から見た商品経済進展のダイナミズム—」

池本正純 (参与)



- 「明治初年新潟小澤家の北前船ビジネスの一齣」 川村晃正 (参与)  
「晩夏の日本海紀行」 高橋祐吉 (参与)  
(10) 3月20日 (第669号)  
「川崎市税制の特徴と推移」 原田博夫 (所員)  
「台湾ベンチャー・ビジネスの動向とベンチャー・キャピタル  
—台湾企業のベンチャー型創業とベンチャー・キャピタルの役割—」 荒井久雄 (客員)

## 2019年度

- (1) 4月20日 (670号)  
「カメラマウントの変遷と今後のミラーレスカメラの動向」 望月 宏 (所員)  
「日本のカメラ・光学産業の進化プロセス  
—ニコンとキャノンにみる事業拡大戦略の変遷とその課題—」 笠原伸一朗 (所員)  
「グローバル化時代における光学機器産業の復権と発展」 小原理一郎 (外部)  
「科学技術の進歩とカメラ産業の変遷」 池田英生 (外部)  
(2) 5月20日 (671号)  
「草津の温泉文化——湯治・ハンセン病・被差別部落——」 川上 隆志 (所員)  
「日本の《発見》——西欧人／日本人による《旅行》と明治・大正期のガイドブック～  
ポール・クローデルの目に映った1898年と1920年の間の日本を例として」 根岸徹郎 (所員)  
「日本の山岳信仰と温泉」 鈴木健郎 (所員)  
(3) 6月20日 (672号)  
「減災サイクルのステークホルダーと事前復興への取り組みの実相 (I)  
—被災地石巻での聞き取り調査から：「仮設住宅」生活を射程に—」 所澤新一郎 (客員)・大矢根淳 (所員)  
「外部支援者が介在した被災コミュニティ回復の模索と課題  
—阪神・淡路大震災から東日本大震災へ、そして未被災地の事前復興へ—」 三澤一孔 (客員)・大矢根淳 (所員)  
(4) 7月20日 (673号)  
「高度経済成長期における総合商社の商取引に関する歴史分析：三井物産を事例に」 谷ヶ城秀吉 (所員)  
「日本の若者は2000年に入って韓国の若者に身長で追い抜かれた  
—台湾の歴史的統計を勘案すると遺伝的差ではない—」 森 宏 (客員)  
(5) 8月20日 (674号)  
「A working paper on the local land access arrangement in rural Nigeria」 Regina Hoi Yee FU (所員)  
「場所形成 (place-making)」の思想と「カイロス」の時間  
—都市の周辺世界鶴見・潮田の思想の水脈— 広田康生 (所員)  
(6) 9月20日・10月20日 (675号・676号) 合併号：2018年度春季実態調査特集号  
「社会科学研究所 2018年度春季実態調査 (スリランカ) 行程記録」 飯沼健子 (所員)

- 「孤立と対話に揺れるムスリム住民」 中村尚司（外部）
- 「データでみるスリランカ経済の現状と課題」 高橋義博（所員）
- 「中国「一带一路」事業のスリランカへのインパクトとその評価」 稲田十一（所員）
- 「スリランカの港湾整備と債務の罫を考える」 徐 一睿（所員）
- 「『セイロンティ』にいたる欧州諸宗主国の植民地主義の変遷とその残滓」 宮寄晃臣（所員）
- 「民間企業におけるジェンダー・エンパワーメントの可能性  
—MAS Holdings 社の事例を参考に—」 飯沼健子（所員）
- 「市場変化によるわが国製造業の製造拠点管理  
—スリランカにおけるノリタケの事業活動を中心として—」 石川和男（所員）
- 「スリランカにおける尾道造船コロomboドックヤードの位置づけとその事業展開  
—Colombo Dockyard PLC 見聞記録から—」 樋口博美（所員）
- 「スリランカの視覚障がい者支援の社会的企業—Thusare 指圧院の活動に関して—」 飯田謙一（参与）
- 「足手まといのスリランカ紀行」 池本正純（参与）
- (7) 11月20日（677号）
- 「特集「リスク選択とデモクラシー」に寄せて」 恒木健太郎（所員）
- 「開戦の意思決定をしたのは誰か」 定藤博子（外部）
- 「日米開戦と「正確な情報」」 牧野邦昭（外部）
- 「戦争回避の可能性をめぐる歴史的想像力」 井上寿一（外部）
- 「戦争回顧の新ステージ——公定理解を刷り込みの先に」 菅原 光（所員）
- (8) 12月20日（678号）
- 「東日本における夏秋養蚕業の発展と繭価動向  
—1900年代半ばの「繭市場統合説」の再検討（2）—」 高梨健司（客員）
- 「佐藤忠男とアジア、そして中国映画」 劉 文兵（客員）
- (9) 1月20日・2月20日（679・680号合併号）：2019年度夏季実態調査特集号〔編集集中〕
- (10) 3月20日（681号）〔編集集中〕

### 3. 『社研叢書』第22巻刊行について

特別研究助成（2017年度1年間の助成）『社会科学研究所70年史』（村上俊介（代表）・石川和男・大矢根淳・樋口博美・宮寄晃臣・柴田弘捷・町田俊彦の7名）が、本年度刊行予定である。

## 7. その他の研究活動

### 1. 文献資料

#### (1) 文献資料の収集

- ①社会科学分野にかかわるリファレンス資料に相当するもの（辞書、統計、白書、年鑑等）、および東アジア経済社会に関する文献の収集に重点をおく、という方針に基づいて文献資料の取

集を進めてきた。

- ②メーリングリストや公式WEBサイトを通じて、広く所員から文献購入希望を募り、また、事務局より積極的に文献購入についての提案を行い、予算枠を考慮しながら随時購入してきた。今年度も中国統計書を、所員からの要望を鑑み年度末までに購入する。

## (2) 文献資料の整理、配架等

2017年度から進めてきた山田盛太郎文庫、藤本武文庫、2つの特別文庫の修復、整理、配架作業を継続し、広く所員が利用できる状態をめざした取り組みを行ってきた。

### ①山田盛太郎文庫の修復・整理と文庫に関連する特別研究会の開催

社会科学研究所70周年を記念して、山田盛太郎に関連した特別研究会の開催を年度内の2020年2月17日に予定している。今後も学外の専門的知識提供者に協力を依頼し、山田盛太郎文庫の保管状況の確認（修復）を進めるつもりである。

### ②藤本武文庫の整理

未整理のものが数多く残っていたため、今年度も調査・分析・整理を学外の専門的知識提供者に協力依頼をして進めてきた。作業はまだ年度内も続く予定である。

- ③来年度から神田分室が、社研、商研、経営研の三研究所による共同利用となるため、分室の書籍整理を行う必要が出てきた。特に東亜研究所に関する文献について確認しながら今後の整理を進めていくこととする。

## 2. PC / HP

### (1) ホームページの充実

昨年より開始した学内CMS化に対応しつつ、掲載コンテンツの内容など社会科学研究所ホームページのさらなる充実をすすめてきた。

### (2) 電子メールの活用

電子メール活用による通信業務効率化を引き続き推進した。所員に対する案内等の原則電子メール化（2007年度開始）を継続しており、総会案内に関しても電子メールでも案内を出している（出欠確認、委任状集約等については、往復はがき、研究室受付での回収等を継続している）。

### (3) 所報のデジタル化と専修大学学術機関リポジトリへの登録

デジタル化を行った論文に関して、掲載許諾を得ている論文については、社会科学研究所ホームページに全文公開するよう作業を行ってきた（許諾を得ていない論文は、タイトル・著者のみを掲載することとした）。

年度内には社会科学研究所のホームページに掲載される公開論文（月報・年報）への書誌情報（掲載雑誌名、号数、発行年月、DOI等）を付ける作業の準備作業を進めることになる。

## 8. 社会科学研究所「規程・細則・内規」（2014年3月）の改正

### 1. 客員研究員に関する細則の改正

昨年度2018年12月開催の後期総会にて承認された客員研究員に関する規程改正を受け（※規程

改正については後期総会直後に大学へ規程改正願を提出、2019年1月16日の常任理事会にて承認を受け、その変更内容を2018年度の年報・所報に記載した)、事務局では2019年1月以降、規程改正に関わる細則と内規の改正について検討を続けてきた。

今年度2019年6月に開催された前期総会では、これらの事務局での議論を細則・内規改正として提案し承認された。

以下に、細則と内規の改正内容を示しておく。なお、所員全体には『社研通信2019年度No.1』(2019.6.11)にて、専修大学社会科学研究所規程第10条【客員研究員】(参考として)ならびに同研究参与・客員研究員・特別研究員に関する細則、年報・月報の編集に関する内規の改正として周知した。

### (1) 細則改正

研究参与・客員研究員・特別研究員に関する細則 「規程・細則・内規集」(2014年3月) p.7

[1は変更なし、2～5を追加]

1. 研究参与、客員研究員および特別研究員は、所員と同様に研究所の事業に参加することができる。ただし、研究助成の責任者となることはできない。
2. 客員研究員および特別研究員の委嘱については、所員2名による推薦状を、所長に提出しなければならない。
3. 客員研究員および特別研究員の推薦者は、推薦書とともに客員研究員候補者の「履歴・主な業績」を提出しなければならない。(⇒推薦書の書式改定を伴う)
4. 研究参与、客員研究員および特別研究員から解嘱の申し出があった場合には、所長は解嘱しなければならない。
5. 客員研究員の継続は、所員である推薦者2名による継続申請書を、所長に提出しなければならない。

### (2) 内規改正

年報・月報の編集に関する内規 「規程・細則・内規集」(2014年3月) p.11

[8として追加]

投稿について、編集担当者会議によって問題があると判断された場合(形式不備、不適切な引用等)、編集委員(もしくは、投稿者が客員研究員の場合は所内の推薦者)によって対処することとする。

## 2. 神田分室三研究所共同利用のための利用内規の改正

2020年からの専修大学神田新展開の一環である商学部移転にともなって、昨年度(2018年度)より学長室から社会科学研究所の神田分室を商学研究所と会計学研究所との三研究所共同利用についての打診があり、利用条件を提示するなど事務局では1年以上かけてその対応を議論してきた。

結果、三研究所での共同利用を暫定的なものとして受け入れることとし、2019年11月5日には第1回三研究所世話人会において利用に関わる合意を得、それらを受けて今年度の後期総会では神田分室利用に関する内規の改正案を提出し、承認された。以下に改正内容を記しておく。

神田分室の利用に関する内規 「規程・細則・内規集」(2014年3月) p.17

[改正]

1. 神田分室は、2020年度から、専修大学神田キャンパスの再構築の一環である商学部神田移転にともない、社会科学研究所と商学研究所、会計学研究所の三研究所による共同利用とする。ただしこれは、将来的には各研究所が固有の事務室を所有することとなるまでの暫定的な措置である。
2. 神田分室の共同利用に関わる調整等は分室世話人（※当面は事務局長が兼ねる）が行うこととする。
3. 神田分室の研究所事務室、会議室としての使用は、毎週火曜日は商学研究所、会計学研究所の優先とする。週末の使用は社会科学研究所の使用を優先する。その他、利用日程・時間は三研究所間にて適宜調整の上、使用する。
4. 研究会等のために神田分室の使用を希望する各研究所の所員は、日程・時間等の調整を必要とする場合があるので、必ず届け出なければならない。
5. 届け出の取り扱いは、社会科学研究所の事務局職員もしくは分室世話人が担当する。
6. 神田分室の利用予約は3ヶ月前の月の第一週から始める。
7. 神田分室を研究会として利用する場合、同一グループが1ヶ月に同一曜日を複数回利用することはできない（例：土曜日を同一月内に2回以上予約することはできない）。
8. 同一時間帯に複数の研究会予約が申し込まれた場合には、三研究所間で相互に配慮して対処する。
9. 各研究所の所員が個人として神田分室を利用する場合、届出は不要だが、可能な限り社研事務室へ事前確認をする。各研究所が優先的に使用する時間帯、研究会等で使用される時間帯以外での使用とする。
10. 神田分室の鍵は神田校舎B 1 受付に置く。
11. 神田分室を研究会等あるいは個人で利用する各研究所の所員は、当日受付に身分証明書を提示し、利用者名簿に必要事項を記入する。
12. 神田分室を研究会等あるいは個人で利用した各研究所の所員は、分室の管理に全責任を負う。
13. 所員が不在のまま、三研究所の所員以外の者が神田分室を利用することはできない。